

第7期科学技術・イノベーション基本計画の検討に向けた意見について

令和6年8月15日

基礎研究振興部会

1. 基礎研究の価値

デジタルトランスフォーメーション（DX）によって、従来のリニアモデルの延長上にはない不連続な変化点、パラダイムシフトが起こる時代となった。そこでは、研究は短期、長期の旧来の区別がなくなりつつあるとともに、基礎研究とイノベーションの距離が近接し相互に行き来するなど、これまでの基礎研究の在り方とは異なるものとなりつつある。

このような状況において、基礎研究の重要性はますます大きくなり、その研究成果は、新たな価値レイヤーを創造し、将来の社会経済の転換や産業構造の変革機会を創出するものとして、認識すべきである。

その認識の下で、社会的また知的な新たな価値を創造し、未来の成長機会の源泉となる基礎研究をより一層推進していくことが必要である。

基礎研究の多様性と厚みを生み出しつつ社会との好循環を形成していくためには、

- 若手研究者のみならず全ての研究者が長期間腰を据えて挑戦的な研究に打ち込める状況や国際的な潮流を踏まえた研究環境の整備
- 多様な分野及びセグメントの研究者の交流や結集、融合により新たな研究分野の開拓及びその展開を推進するための支援の強化
- 人文学、社会科学から自然科学に至るまで伝統的な研究に加えて、必ずしも従来の延長線上にはない独創的な研究に対する支援の強化

といった取組が重要である。

2. 基礎研究の社会的意義・価値化

基礎研究の知的アセットは、人類の進化の基盤となる貴重な無形資産である。基礎研究の加速に向け、更なる投資を呼び込むためには、より良い社会の実現を目指し、社会との間で好循環を形成することが必要であり、基礎研究の知的アセットを多様な形で見える化し、社会的価値を顕在化させていくことが必要である。

例えば、大学と企業等の共同研究においては、研究成果のみならず基礎研究そのものが有する知的アセットに対する適切な値付け（「知」の価値付け）を行い、その対価を、研究者・学生の教育研究環境の改善や新たな研究課題に挑戦する費用等に充てることで、好循環を形成し、基礎研究の学問の幅を拡げ進展させていく、機能拡張モデルの実践が重要である。

3. 基礎研究の更なる進展に向けた研究 DX の推進

新たな価値を目指したデジタル技術とデータ活用による研究活動（研究デジタルトランスフォーメーション（DX））が進みつつある。また、AI×個別分野、AI×複数分野の組み合わせなど、AI とあらゆる研究分野が融合することにより、科学研究が飛躍的に発展し加速することが見込まれている。

このような状況において、基礎研究の取り組み方についても変革が求められており、研究 DX や AI を効果的に取り入れ、基礎研究を推進していくことが必要である。